三重県木材サプライチェーンマネージメント推進フォーラム第4回情報交換会議事録

1. 日時：令和3年2月25日　10：00～11：30
2. 場所：ホテルグリーンパーク津　6F藤・萩（三重県津市羽所町700）
3. 出席者：別紙会員名簿の「出席」および　「リモート」記載者
4. 配付資料：添付のとおり
5. 内容
6. 開会・挨拶（10：00～10:05）　事務局深田
7. 三重県木材サプライチェーン構想事務局案の提示　事務局深田

別紙「三重県木材サプライチェーン構想（案）」について説明。

1. 事務局案に対するQ＆A、意見交換（敬称・肩書き略）

10：35　開始（敬称略）

コーディネーター・萩原

* 木造建築物に県産材を使ってもらうために木材側から働きかける必要がある。
* 県内事業者でも県産材を意識しない、使っていない工務店も多い。

情報センター・永井

* 2の項目で木材の流れが数字で書いてあるがぅにした方がわかりやすいのではないか。

事務局・深田

* 最後には図にします。

事務局・深田

* 2の木材の流れで、製品市場への出荷で「北陸方面」を入れたのですが、これはどうでしょう。

コーディネーター・中野

* ウッドピアの製品市では新潟県や福井県の方面に出荷されています。
* 製品が北陸方面に流れているのは確かだが、北陸の製品市場に流れているのは少ないと思う。

オオコーチ・黄瀬

* 直接工務店や木材問屋へ流れているのはあるが、製品市へはごく少ないと思う。

事務局・深田

* 北陸の記述の後の「三重県以西の製品市場へはほぼ出荷されていない」というのはどうでしょう

オオコーチ・黄瀬

* 関西圏には製品市場はありますが、三重県からの出荷は少ない。九州・中国・四国方面が強いので三重県が入っていけない。

情報センター・永井

* 3の1で、中大規模木造に関してサプライチェーンをネットワーク化すると書かれているが、住宅に関しては必要ないのか。

事務局・深田

* 以前の情報交換会で、「木材の調達で困ったことはないか」と言う林野庁・高木様の質問に工務店の方は、「住宅を作っていることに関しては、木材の調達に困ったことはない。」と答えていたことから、中大規模木造に関してサプライチェーンのネットワーク化が必要と感じたのでこういう記述になった。

コウヨウ・山本

* 中大規模木造となると公共施設が多いと思う。その際、構造材はJASが必須となるが、三重県内で構造材のJAS工場はどれほどあるか。

事務局・真弓

* 県内のJAS工場は機械等級で正角と平角がA社とB社、正角の6m材がC社。目視は2社、グリーンが1社。そのほか、資格者がいてすぐにJASの申請ができる工場が3社ある。A/B社は三重県でもトップクラスの製材料があるので、供給量としてはそれなりのあると思う。

コウヨウ・山本

* 杉の平角4m材を150m3～160m3発注してから納入まで、どれほどの期間が必要か。

オオコーチ・黄瀬

* 2～3ヵ月はかかると思う。乾燥と養生に時間がかかる。

松阪木材・中野

* 3ヵ月から半年。

野地木材工業・野地

* 今から作れと言われると難しい。売れる見込みがないからその体制を取っていない。150m3を安定的に買うから作ってと言われるなら、今、月に2,000m3/作っているものを2,200m3にすることは可能。
* まず、木造の建物を増やすことを考えるべきで、県産材が内なら国産アイで、それもないなら外材でもいいではないか。
* 県産材が少ないから県何木造が少ないのでは、と思ってしまう。

全市連・立花

* 県内サプライチェーンの構築で「協定書」。の中身はどんな物を想定しているのか

事務局・深田

* 建築士。工務店から情報をもらい、木協連、木造塾、松阪木材が話し合いをセットする。そして、話し合いに参加する団体・企業の範囲などを決めておく。といったことを想定している。

全市連・立花

* 広域の方で「A材」と書いてあるが、A,B,C材は原木でのことで、製品では性愛品と書くべきでしょう。

事務局・深田

* そのように変えます。

情報センター・永井

* 中大規模木造の発注情報をいち早く取ることが必要となる。

事務局・深田

* 三重県木協連では毎年秋に、公共施設の木造化について地区木協が市・町に要望活動を行い、その時、そういった情報も取るようにしている。

コーディネーター・萩原

* 小規模な工務店やフォーラム外の工務店では県産材を使うことに関心がない。また、みえるところに木材を使い意識がない。現し出で木材を使うことがない。こちらから働きかけることが重要。
* 今の住宅は合板を多く使っている。これを無垢材に変えれば、多くの県産材が使われるようになる。具体的には、2階の床、屋根の野地板などは耐震の設計には剛性が重要になる。そのために強度のはっきりした合板が使われている。これを無垢材にするため県の林業研究所では床倍率の構造実験を行っており、ほぼ完了していると聞いている。

三重県・福島副課長

* もう終わったと聞いている。

事務局・深田

* 10年ほど前には横架材のスパン表ができている。それと合わせ県産材の使用に係る構造計算が可能になるので利用して欲しい。

コーディネーター・中野

* コーディネーターをしていて、林野庁や全国の方の話を聞いている。少しその情報を話します。
* 「もりんく」の登録は三重県がトップクラスと聞いた。せっかく林野庁から補助が出て作られたものなので、SCの助けとなる基礎のシステムなので、多くの方に登録をいただき、活用していけるよう皆様も呼びかけて欲しい。

事務局・深田

* 三重県木連の会員には「もりんく」のURLのリンクをいれたメールを400通、「もりんく」のQRコードの入ったチラシを工務店・建築士に700通送った。ダブりもあるので合わせて千通ぐらいに呼びかけた。

林野庁・高木班長

* 「もりんく」は、今は登録しかできないが4月以降本格稼働する。
* この事業を行っていない都府県、多くの団体に呼びかけることにしている。

三重県・福島副課長

* 県では「中大規模木造建築設計セミナー」を始めて3年になる。その修了者の活用も考え、このサプライチェーンの事業とうまくリンクできれば良いと思う。

11:30　終了